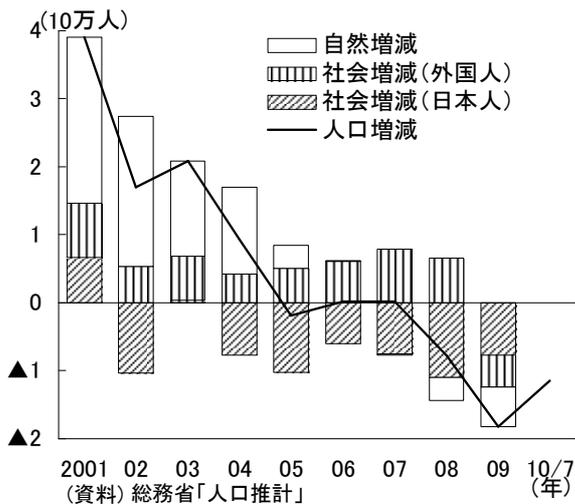


減少するわが国人口

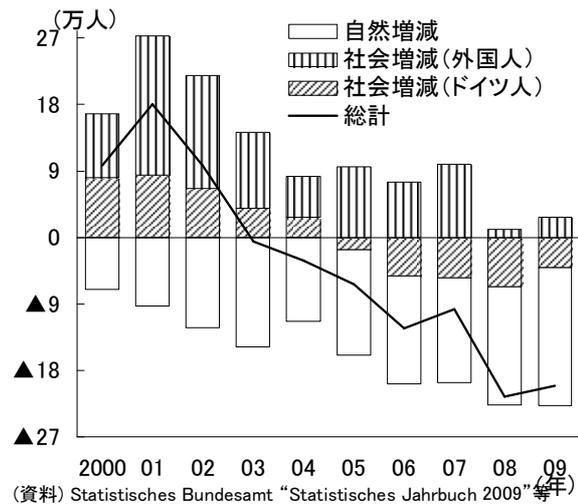
～ 主因は海外流出 ～

- (1) わが国総人口は2008年から減少。主因は少子高齢化に伴う自然増減でなく、海外流出に伴う社会増減(図表1)。本年入り後も減少傾向が持続。9.11事件が起きた2001年、SARSが流行した03年には海外流出せず。しかし、両年を除くと、2000年代に入り、日本人の海外流出は毎年10万人前後で推移。加えて外国人が、08年まで毎年10万人弱流入して日本人の海外流出を一部穴埋めしてきたものの、09年に流出に転じたことも一因。
- (2) 先進国中、わが国に先駆けて人口が減少したドイツは少子化が主因(図表2)。しかし、05年以降、ドイツ人の社会増減が海外流出に転換。さらに、08年に入り外国人の流入に急ブレーキ。背景にドイツ経済の成長鈍化。加えて、新興国経済が飛躍的成長を遂げるなか、ドイツ経済の相対的魅力が低下。
- (3) そうした見方はわが国にも妥当する公算大。GDP動向を対比すると、わが国経済は90年代から長期安定しているのに対して、中国をはじめ、新興各国経済はハイペースの成長を今後も中期的に持続する見通し(図表3)。
- (4) サブプライムショック以降、わが国企業は海外駐在員数を抑制(図表4)。しかし、個人の流出が加速し、全体として流出傾向が持続。仮に上記の観点から今後を展望すると、少子高齢化に伴う自然減の本格化が海外流出に拍車を掛ける展開も視野に。

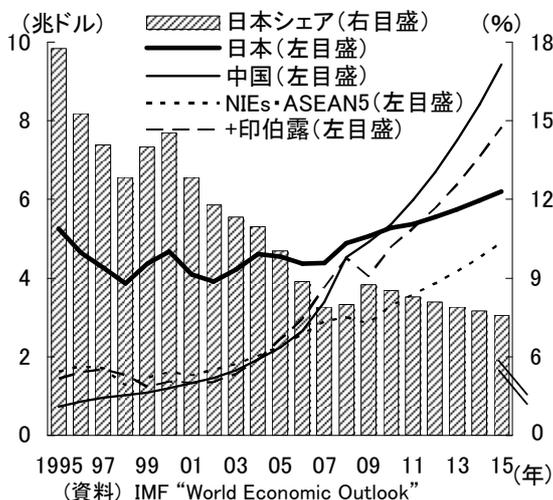
(図表1) わが国人口の推移(前年差)



(図表2) ドイツの人口推移(前年差)



(図表3) 日本と主要新興国のGDP(IMF推計)



(図表4) わが国海外在留者数の推移

